

沖縄県最高峰「於茂登岳」525mに登る。 原生林のシャワー！西表島縦走トレッキング！

日程：2016年3月1日（火）「於茂登岳」525m

3月2日（水） 上原—浦内川：軍艦岩—「第二山小屋跡」

メンバー：深澤裕（単独） 西表縦走トレッキングはガイドと二人

石垣島は1975年の海洋博覧会以来。「於茂登岳」525mに登りに行きました。1日朝9時、レンタカーを借りて登山口まで行きます。途中にサトウキビ畑が広がります。「於茂登岳」は沖縄県最高峰。かつて沖縄本島の「与那覇岳」498mに登り、ここが沖縄県最高峰だと思いこんでいたが、あるとき気がつきました。いつかは沖縄最高峰に登ろうと思い、やっと実現しました。

登山口には車が3台停まっていた。登山口は標識がしっかりとしています。巨大なシダが覆い茂り、ジャングルのような南の島を実感します。ここは蛭が多いそうです。今の季節は冬なので喰われなかったです。道も思ったより乾燥していました。沢沿いの道を進みます。最後の水場を過ぎると約40分で頂上。水はあまり澄んでいませんでしたが呑んでみます。ちょっと温めです。



於茂登岳頂上

頂上付近は広い笹原です。頂上からは島の周りの海が見渡せます。北の方には川平湾が眺められます。風が強く笹原が揺れています。何とも気分の良い風景です。しばし風に吹かれます。巨大なアンテナが建っていましたが軍の施設なのでしょう。こんな辺鄙なところに異常な大きさです。



西表縦走路入り口

下山は登ってきた道をそのまま下ります。50分で車に戻ります。途中で年輩の7人グループと若い二人組とすれ違いました。皆さん頂上でお弁当を食べるのだそうです。楽しそうなグループでした。地元の人に愛されている山なのだなぁと嬉しくなりました。



サキシマスオノキ

12時30分にレンタカーを返します。約2時間のトレッキングでした。レンタカー会社の方に「蛭に喰われなかったですか」と聞かれました。石垣島の「栄福食堂」でも同じことを聞かれました。(この食堂の「山羊ソバ」は絶品です。) 地元の人には蛭で有名なのかなぁと思いました。自分の思いの詰まった山に登るのはいいものです。525mの頂上から眺める海と風を満喫しました。

14時の船で西表島に行きます。風が強いため大原行きの船しか運航していません。参りました。大原から上原までバスで約1時間行きます。車窓からは田植えが見えます。本土より2ヶ月はやいです。沖縄は暖かいですねえ。この島は石垣島と違い、原生林で覆われています。緑が濃い島です。

上原の民宿：母屋(ままや)に17時着。この宿は清潔で気分良いです。一泊二食で8500円。湯船で汗を流します。石垣島の泡盛「請福」も無料でした。3杯もお代わりしてしまいました。沖縄は東京より1時間くらいずれているので日の入りが7時くらいです。ゆったりしています。

宿のマスターに明日の西表縦走トレッキングのガイドを捜してもらいます。インターネットで検索し電話をします。今日の明日でガイドをお願いするという無謀なことなので恐縮しました。2件断られましたが、3件目の電話でガイドが見つかりました。西表ツアーガイド「カラカラ」です。ガイドを一日25000円で引き受けてくれました。ゴム長靴とランチ・水・おやつ付だそうです。感謝です。約8時間のトレッキングだそうです。西表島ではガイド同伴が義務つけられています。個人では入山できないので助かりました。折角テントを持ってきましたが使わないことになりました。

2日。6時起床。ストレッチをします。まだ暗い。沖縄の日の出は7時30分頃です。日が出ると日差しは強いです。爽やかな天気です。パッキングしてから散歩します。この民宿の周りは芝生が広がり、隣にパイナップル畑が続きます。青空が広がります。八重山の西隣は台湾です。ちなみに那覇から石垣までは東京と大阪の距離より遠いのです。8時30分BF。

9時にツアーガイド「カラカラ」にピックアップしてもらいます。ガイドのKさんが運転しています。隣に座っている奥さんが夕方、大原の出口で迎えてくれるようです。テント・シュラフ類は車に積んで運んでもらいます。荷物が70%ほど軽くなります。スパッツも無し。トレッキングシューズも濡れずに済みます。また下山口の大富側登山口からの2時間は車道を歩かなくて済みます。これは助かります。

白いゴム長靴を借ります。ランチ弁当・水500ml・おやつ付です。ちなみにこのゴム長靴は膝までの長さがあります。調理師用で滑りにくい仕様になっているそうです。ハブに噛まれても十分に耐えられる作りだそうです。有り難い。3月の時期、ハブは岩の陰でじっとしているそうです。しかし今頃は、子どものハブが枝に登ってきていることが多いので「枝を掴むときは子どものハブに気を付けるように」と言われました。ポイズンリムーバーを持ってこなかったのが心配でしたが、Kさんが持ってきたので安心しました。

9時30分に浦内川（うらうちがわ）の船乗り場から船が出ます。ここから軍艦岩まで約30分のクルーズ。今朝は風が無く穏やかな水面です。客は20人くらい乗っています。他の客は軍艦岩辺りを3時間ほど散歩してまた戻るようです。青空が水面に映えます。景色が水面に鏡のように映ります。

今日、西表縦走をするのは私たち2人とタイから来た白人とガイド2人の計4人だけのようです。この9時30分の便に乗らないと西表縦走は夕方までに下山口に辿り着かないらしいです。

10時に軍艦岩着。ここから15分くらいしっかりとした石の道が続いています。マリウドの滝を眺めます。更に10分ほど歩くとカンビレーの滝が現れます。水量が豊富です。川の中を暫く歩きます。水が心地よい。上流に向かっていくと、流れの中にポットホール（水流と小石が長い年月をかけて作り出した丸い穴）が幾つも現れます。この辺りの岩は砂岩なのでけっこう柔らかそうです。

更に川沿いに歩くと左側に立派な金属製の道標が現れます。登山口です。しっかりとしています。1番の番号が付いています。この道標は400mごとに設置されているそうです。終点の大富側登山口の番号は24番だそうです。ここからのトレッキングは個人入山が禁じられています。ガイド同伴でないとだめだそうです。



ガイドのKさんは42歳。10年ほど前にアソナプルナ・サーキットも歩いているそうです。話が合いました。大阪出身で西表島の自然が気に入り、ここで仕事をしているそうです。冬はトレッキング。夏はカヤックやシュノーケリングのガイドの仕事が多いそうです。海と山のアウトドアマンです。

薄日の射すジャングルの中の道を歩きます。

このトレイルはアップダウンが多く結構汗をかきます。蛭予防のため長袖シャツの上に雨具を着ました。道は川の中を歩くことが多く、乾いた道には琉球イノシシが掘った跡がかなり残っています。長靴が大活躍です。シダ類やコケ類も多く、南を感じさせます。サキシマスオウノキという根が板のように広がった不思議な樹木が観られます。浦内川の左側に沿った崖の道を歩きます。



マヤグスクの滝

右側を浦内川がごうごうと流れています。路肩はある程度しっかりしています。しかしテントを入れた大きなザックだったらかなり気を付けないと危ない道です。この縦走路はかつて大原から上原まで電気が通っていなかった頃に、電線を引いた道だそうです。当時、上原には船でしか行けず、電気もなく、この道を開発して電線を引いたそうです。現在はトレッキング用の道になっているそうです。西表島小学校では5・6年生になるとこの縦走路を保護者と一緒に歩く行事があるそうです。子どもたちは元気に歩くのですが親がへたってしまうそうです。親子でこの長丁場を一緒に歩くというのはいいものですね。

琉球イノシシが掘った跡がやたらあります。Kさんは冬場はイノシシ狩りをするそうです。1月～3月は罾をかけ、毎日のようにチェックするそうです。30kgくらいの獲物が捕れるそうです。ただし、イノシシの肉は市場には出回らず、仲間うちで頂くそうです。ちなみに今日のランチは「琉球イノシシ肉のタコライス」でした。肉感がしっかりして歯応えもあり絶品でした。



琉球イノシシ肉のタコライス

11時30分。「第二山小屋跡」に着きます。この場所にはテントが3～4張りできるスペースがあります。本来ならばここでキャンプする予定でしたが今回はスルーします。更に行くと浦内川とイタチキ川の出会に出ます。この場所は開放的で暗いジャングルを歩いてきた者にとっては開放感のある場所です。川幅も広く気分がいいです。

ここから約30分ほどイタチキ川沿いに歩くとマヤグスクの滝に出ます。マヤとは猫を表し、グスクは城を表しているそうです。開放感溢れるこの場所でゆっくりお弁当を頂きます。「琉球イノシシ肉のタコライス」。歯応えのある琉球イノシシの肉が旨し。水は3L持ってきたので十分です。このコースは沢沿いの道なのでガブガブ飲めるかと思っていましたが、Kさんが言うには「あまりのまない方がいい」とのこと。

昼食後、再度トレッキングコースに入ります。この入り口は4mくらいの崖になっています。ロープが垂れ下がっているのでこれをよじ登って行きます。ザックが軽くて助かりました。ジャングルに入ると中は暗く、涼しい。乾いた道もありますが、膝近くまですっこむ川の道もあります。アップダウンの道が続きます。渡渉する所も何カ所かあります。ピンクのテープングがしてありルートファイディングは問題はありません。3時頃に「第一山小屋跡」に着きます。ここもテントが3張りくらい張れる場所です。しかし幕営禁止となっているらしいです。ここからしばらく行くと古見岳への分岐があります。古見岳は西表島の最高峰です。このコースは荒廃しているので「入り込まないように」という表示がありました。

5時。浦内川水系と仲間川水系の分水嶺を越えます。やっと道標の24番です。大富側登山口に出ます。こちら側は開放感のある広場もあります。本来ならここから約2時間の車道歩きなのですが、ガイドの車が迎えに来てくれました。

途中、仲間川を見渡す展望台がありました。ここから360°の原生林を眺めます。ここから眺めるマングローブの原生林は吸い込まれるような深い緑でした。

ハブにも出会わず、蛭にも噛まれず、イノシシにも出会わずラッキー？なトレッキングができました。約8時間の原生林のシャワーのジャングルのトレッキングを堪能しました。ガイドのKさんには改めて感謝です。

大原港に向かう車からカンムリワシが電柱にとまっているのが見えました。この鳥は畑の鼠を捕らえるので島の人には大事にしているそうです。この猛禽類は食物連鎖のトップにいます。本土では殆ど見られなくなりましたが西表島では当たり前に見られるのは凄いと改めて思いました。

※西表島ツアーガイド「カラカラ」

〒907-1434 沖縄県八重山郡 竹富町字南風見508-9

TEL 0980-85-5288



西表の地図